

二十四ページより続く

六十三年度は、この三つのコーナーを中心としてオープン保育の研究的な実践に取り組んだということが出来る。

○ 身近な自然環境での遊びの体験をコーナー遊びに発展

○ 郷土の文化や伝統に興味をもたせるコーナー遊び

であることを重視し、三つのコーナーではあるが、取りあげ方や場の設定をいろいろ工夫してみた。

一週間ないし、十日間のサイクルでコーナー遊びは終わるが、次は、同じコーナーを選択してもよいし、別のコーナーを選択してもよいことにした。

総合的な活動なので、どのコーナーを選んでも内容は豊かでロティションをとる必要のない構成にした。

一人一人の発想が楽しく、個性的でユニークな活動が展開した。年齢をこえた協力や学びあいが見られ、オープン保育のよさが生かされた。

反省と今後の課題

○ たてわり保育と保育の多様化
たてわり保育にすることによって、これまでのような学級意識がなくなり、園全体で幼児の主眼的な生活を中心に展開するオープン教育を志向した活動ができるようになってきた。

保育組織もチームティーチングに

資料3 「楽器で遊ぶ」の活動計画

ねらい	○音に興味・関心を持つ。 ○身近にある材料を使って、楽器を工夫して作り楽しく遊ぶ。							
月 日	7月1日(金)	2日(土)	4日(月)	6日(水)	7日(木)	8日(金)	9日(土)	
幼児の活動	音をさがそう ・好きな楽器で遊ぶ。 ・いろいろな音の性質を知る。 ・高い音、低い音、きれいな音、いやな音 ○身近なものから音がしがる。 ・めわくしい音がするものがみんまで聞くの音 電車の音など ○ビニール袋に小石や砂などを拾ってくる。	楽器を作ろう ○マラカスを作ろう。 ・中に入れる物を工夫する。 ・小さい物を入れた時 大きい物を入れた時 音のちがいが ○作ったマラカスで、音を出して遊ぶ。 ・他の人との音の違い	たたくと音のするグループを作ろう。 ・大きい物を作るグループ ・小さい物を作るグループで相談して作る。 大太鼓、小太鼓、タンバリン、拍子木、テンパニーなど ○作った楽器をたたいて遊ぶ。	はじくと音のする物 ○振物と音のする物 ○ひっぱると音のする物 ・3つのグループに分かれる。 ・グループで話し合いながら作る。 ・作った楽器を鳴らして遊ぶ。 シンバル、ギロ、ゴム琴、パンジョ、輪ゴムギター	作る ○音あてゲームをしよう。 ・ゲームのやり方について知る。 ・ゲームをする。	○楽はちびっこ音楽隊の音色別に集まる。 ・楽器別に鳴らしてみよう。 ・曲に合わせて分担当して演奏する。 ○楽しい発表会 ・園庭でパレードする。 ・お話しで遊ぶほうのコーナーのお友達と一緒に遊ぶ。	みんなで遊ぼう ・別コーナーのお友達に合奏をしてみよう。 ・別コーナーのお友達の劇あそびをみる。 ・おもちゃやさんのお友達に所へ買い物に行く。	※各コーナーの交流
指導上の留意点	○どんな小さな音でも保育者は大切に認めあげたい。 ○楽器みたい、誘いかけ、楽器作りがわかるようにする。 ○同じものでも大きさや形、持つ方法やたたく方が違ってくるに気づかせよう。 ○雨の音や電車の音をなど、小石や砂を拾って活動につなげていく。	●教師と一緒に作ったり手助けをしよう。 ○子どもが試したりしてうまくいかなかったら、教師が上手に作って見せよう。 ○幼児一人一人が考えたアイデアを他のお友達の作品にも関心を持って見よう。 ○一人一人の発想やアイデアを他のお友達の作品にも関心を持って見よう。	●グループに分かれて作る時、いろいろな工夫をしよう。 ○自分が作りたいものを選びたい材料を豊富に準備しておく。 ○みんなで協力して作ることを大切にするように励ます。	●なかなか取り組めない幼児や自分の考えがだせない幼児をよくみて援助する。 ○打楽器だけでなく、その他の楽器がなくても、工夫して作って見せよう。 ○幼児の発想・アイデアを十分に受けとって活動を進めよう。	●ゲームの内容をよく説明してから行うようにし、ルールが理解できない幼児にはよく説明して行うようにする。 ○最初は年長児から行い、年長児にはよく見てやり方を理解した後に行う。 ○何度も繰り返して行うゲームのおもしろさを知らせていく。	●合奏する場合、好きな楽器を集めるのではなく、音色別に集まるようにする。 ○楽器を選ぶ時は、楽器を自分で好きなように演奏できるように援助する。 ○お話しコーナーのお友達に合奏をしよう。	●劇をみたりする時、一緒にやらない幼児がいれば、交流できるようにするが、見ている人は静かにみるようにさせる。 ○おもちゃ屋さんに行くと、お友達が必要なものがある。幼児が自由にお金を設定できるようにしておく。	
備考	ビニール袋、救急薬品	アイスカップ、小石、あずき、セロテープ、マジック	ダンボール、空かん、ゴム、新聞紙	空かん、輪ゴム、瓶、瓶、ゴップ、かなづち、ふた、マジック、セロテープ	カセット、カセットテープ、手作り楽器	カセット、カセットテープ、手作り楽器	画用紙、はさみ、マジック	

変わり、学級や年齢に関係なく、その子の興味や関心を大切にした保育に入れるようになってきた。

一人一人の幼児の毎日の生活の流れやよどみ、幼児の興味・関心や欲求などの成育の記録をとり、教師自らの取り組みに熱意を燃し続けることができた。

○ 多様な経験や多面的な活動を取り入れた保育について
多様な経験や多面的な活動は幼児の生活の中であり、幼児の身近な自然や地域環境こそが、その素材でもある。幼児の生活している地域には、子供の気づかないでいる面白いことや楽しいことがたくさんある。

そうしたことにふれる機会を多くし直接的な体験を積み重ねていったことが幼児の好奇心を盛り上げ、より興味・関心を高めて、自発的に取り組む幼児を育てることにつながった。

自分の課題を最後までやり通す幼児がふえ、四、五歳児それぞれに友だちとのかわり、ますます熱中するようになり、自分の行動に自分で責任をもとうとする自立の態度も育ってきた。おしゃべりすることが楽しくなり、自己表現が豊かになってきた。したがって一人一人の表情や行動がとてもし生き生きとしてきた。

